



古関裕而記念音楽祭とは…

古関裕而氏の偉業を記念し、永くその功績を後世に伝えるとともに、福島市から全国への文化の発信をめざし、『ふるさと創生事業』として平成3年度から始まりました。

平成21年に古関裕而氏生誕100年を記念した記念音楽祭を開催して以降、公募によって選ばれた市民音楽団体を中心とした「市民参加型」の音楽祭として実施してまいりました。今年古関裕而氏生誕110年を記念し、プロの歌手・プロのオーケストラを中心とした「鑑賞型」の音楽祭を、平成26年(氏生誕105年記念事業)以来5年ぶりに開催いたします。

出演(予定)



加藤 登紀子

1943年ハルビン生まれ。1965年、東京大学在学中に第2回日本アマチュアシャンソンコンクールに優勝し歌手デビュー。1969年「ひとり寝の子守唄」、1971年「知床旅情」ではミリオンセラーとなりレコード大賞歌唱賞受賞。以後、80枚以上のアルバムと多くのヒット曲を世に送り出す。国内コンサートのみならず、世界各地でコンサートを行い1992年、芸術文化活動における功績に対してフランス政府からシュバリエ勲章を授けられた。2000～2011年には環境省・UNEP国連環境計画親善大使に就任。アジア各地を訪れ、自らの目で見たと自然環境の現状を広く伝え、音楽を通じた交流を重ねた。



Y a e

東京生まれ。故藤本敏夫・歌手加藤登紀子の次女。2001年ボニーキャニオンからアルバムCD「new Aeon」でデビュー。存在感あふれる「声」で各地にファンの和を広げ、日本ユニセフ協会の東北大震災応援メッセージCM「ハッピーバースデー3.11」、2015年TBSテレビ60周年企画ドラマ 松嶋菜々子主演「レッドクロス～女たちの赤紙」の挿入歌として起用され反響を得る。2018年には母 加藤登紀子プロデュース「未来への詩(うた)」コンサートをスタートさせる。福島県飯館村「までい大使」(2011年1月～)、2012年3月11日に福島県庁前広場で開催された「3.11ふくしま復興の誓い」では追悼のメロディーを奏でた。また、環境省「つなげよう、支えよう、森里川海プロジェクト」のアンバサダーとしてメッセージを発信するなど、国内外を問わず、社会貢献の支援イベント等へ積極的に参加している。



鬼武 みゆき 作曲家・編曲家・ピアニスト

第58回カンヌ国際映画祭特別上映・小栗康平監督映画「埋もれ木」挿入歌をはじめ、多数作曲。3年に渡り福島県各地を訪れ、美しい自然、伝統的な祭りや文化などを、地元の声に耳を傾け制作した7thアルバム「FUKUSHIMA」を2019年に発表。その地域貢献をNHK福島局で表彰される。自身の活動だけでなく、そのしなやかな演奏スタイルは、加藤登紀子、宮沢和史など様々なアーティストから愛され、現代を生きる私達に元氣と安らぎを与えてくれるアーティスト。オフィシャル・ウェブサイト www.onitake.com



阪 哲朗(指揮)

山形交響楽団常任指揮者。欧米での客演が数多く、約40に及ぶオーケストラ、歌劇場に招かれ成功を収めている。ドイツ・アイゼナハ歌劇場、ドイツ・レーゲンスブルク歌劇場の音楽総監督などを歴任。1995年、第44回プザンソン国際指揮者コンクール優勝。1996年京都府文化賞奨励賞、1997年度ABC国際音楽賞、2000年京都市芸術新人賞、2000年第2回ホテルオーケストラ音楽賞、2004年度第12回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2006年度第26回藤堂頭一郎音楽賞受賞。



山形交響楽団

1972年、東北初のプロ・オーケストラとして誕生。東京・大阪での「さくらんぼコンサート」など年間150回の公演を実施している。2007年から2015年まで「アマデウスへの旅」(モーツァルト交響曲全曲演奏会)を開催。芸術総監督 飯森範親、常任指揮者 阪哲朗、首席客演指揮者 鈴木秀美、ラダク・パボラーク、創立名誉指揮者 村川千秋。オフィシャル・ウェブサイト <http://www.yamakyoko.or.jp/>

福島大学附属小学校合唱部

福島県立橋高等学校合唱部